

【議案第 1 号】

平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

I. 総括

八木原新体制でスタートした平成 27 年度上期の出来事で、特筆すべきことはスポーツクライミングが「2020 東京五輪」への追加競技種目として、2020 東京五輪組織委員会から I O C に推薦されたことである。

推薦されたことは大変光栄なことであり、将来に明るい展望を開くことにもなる。しかし、日山協の現在の組織や財政基盤で 5 年後を迎えることができるのか、これまでの課題や問題はあまりにも多い。

そのため、スポーツクライミングの五輪種目化に伴う国内の中央競技団体(NF)の在り方や組織等について、平成 27 年 11 月に設置された諮問委員会(神崎顧問を座長とする 10 名の委員で構成)に会長が諮問した。答申は平成 28 年 5 月までには得られる見込みである。

競技部所管の資格(審判員・ルートセッター)取得者の登録・認定業務の不手際で、登録、認定が大幅に遅れていることについては、平成 27 年 9 月から「登録台帳」の整備を含めた抜本的な改善作業を実施し、平成 28 年度から登録業務が円滑に行える目処がついた。

今後さらに、資格認定手順の仕組みの明確化やデータベース(DB)化についても急ぎ検討の必要があり、有資格者の登録、加盟団体構成員の登録など会員の DB 化についても急ぎ検討し、平成 28 年度はシステム設計に入る予定である。

また、平成 28 年 8 月 11 日に、国民の祝日「山の日」が施行されるのに伴い、平成 27 年度は「山の日」制定記念事業を全国の各ブロック単位で実施した。平成 28 年度は各都道府県で「山の日」にちなんだキャンペーン事業を展開する予定である。

青少年育成事業として取り組んでいる「みんな集まれ!ジュニア登山教室in立山」や各都道府県山岳連盟(協会)に委託している「少年少女登山教室」は参加者の一部固定傾向や、未実施の都道府県山岳連盟(協会)も半数近くあるが、いずれも地方組織の活性化にもつながる事業であり積極的に取り組まれることを望みたい。

一方、平成 27 年度は「登山月報」の表紙をリニューアルし、全 16 ページをカラー刷りにした。また HP や SNS を活用して日山協をよりよく知ってもらうため、広報委員会内に「デジタル情報小委員会」を設置した。

デジタル情報小委員会では、平成 27 年 11 月に、現在の HP や広報活動のあり方について、アンケート調査を行い、調査で得た多くの意見、要望等を集約して効率的な発信ができるようさらに改善方策を検討中である。

HP の拡充についても、すでに開発会社との契約を結び、平成 28 年度の早い時期に新た

な HP の展開を図ることになっている。

平成 27 年 8 月末には、全役員(理事 25 名・監事 3 名)対象の「役員研修会」を 2 日間の日程で開催した。

一日目は、講話と分科会、二日目は理事懇談会が行われ、日山協の課題や問題を共有しながら、それぞれの立場で課題解決に向けた提案や意見、具体的方策を話し合った。

財政については、スポーツクライミングの五輪種目化に向けて、協賛金に予算以上の収入がみられた。

しかし、同時に IF(国際連盟)来日費用負担、大会の大規模化など支出も増加傾向にあり、収支バランスを維持することが課題だが、平成 27 年度は小幅な動きに留まり、結果は収支均等を維持した。

平成 28 年度は大幅な収入・支出増が見込まれ、より慎重な運営に努めなければならない。

II. 事業内容

1 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

①平成 26 年度から高体連登山専門部所属の選手登録を開始し、27 年度は 7,847 名の登録となった。(前年比 373 名増)

②第 59 回全国高等学校登山大会の開催 8/7 (金)～10 (月) 滋賀県・高島市マキノ高原、比良山地 団体男子(1 チーム 4 名)47 校、団体女子(1 チーム 4 名)47 校参加。

③第 6 回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 (12/23～24、加須市) の開催 男子 40 都道府県、83 校 109 名、女子 36 都道府県 62 校 86 名参加

イ) ジュニア普及

①「少年少女登山教室」の開催 (委託実施) 平成 27 年度は、25 件 (前年比 2 件増) の申請・交付

②「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山 2015」

平成 27 年 8/16 (日)～19 (水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺 子ども 14 名参加

この事業も開始から数年を経過し、日山協主体の事業から、各都道府県岳連 (協会) 主体で行ってほしいという意見も出始めている。登山事業を全国に広める意味においても方向を転換してもいい時期に来ている。

③ジュニア・普及情報交換会

2/13 (土) Bumb 東京スポーツ文化館 参加者 21 名

④「みんなあつまれ!なすかし雪遊び隊 2016」

平成 28 年 3 月 27 日(日)～28 日(月)に国立那須甲子青少年自然の家で開催を予定したが、参加申込者がなく中止した。

ウ) 「山の日」制定記念事業「ふるさとの山に登ろう」

全国9ブロックで開催

この事業をさらに各都道府県に広めるなど、登山事業活性化の一助にしたい。

エ) 第6回日本山岳遺産サミット開催への協力

2/27(土)、東京・神保町 インプレスグループセミナールーム

2. 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・第65回日本スポーツ賞受賞 緒方良行

- ・平成27年度実施各競技大会入賞者(1位~3位)表彰

- ・第54回全日本登山体育大会功労者特別表彰:水野金太郎(群馬)、西田六助(愛媛)、石神美智子(大分)、以上3名

- ・平成27年度永年参与感謝状贈呈:松尾壽(岩手)、尾形一幸(福島)、三森一男(福島)、以上3名

- ・新春懇談会特別表彰者は以下の通り

佐藤旺、瀧本健、徳永邦光(以上東京)、松本睦男、土肥浩嗣(以上富山)、秋山泉(山梨)、宮本義彦(長野)、木村実(茨城)、目次俊雄(千葉)、前田善彦(奈良)、溝上春見(長崎)、野口啓代、緒方良行(以上、選手強化委員会推薦)

- ・第5回日本山岳グランプリの公募

岐阜県山岳連盟推薦の飛騨山岳会に決定、表彰を行った。

- ・平成27年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者として服部一雄(青森)、瀬戸朋義(埼玉)を推薦

エ) 平成27年度海外登山隊奨励金の公募と交付(2015年9月~2016年2月出発隊対象)4隊に交付決定

- ・GiriGiri Boys Patagonia Expedition(20万円交付)

- ・Chamlang Japan Expedition 2015(20万円交付)

- ・Kangtega Expedition 2015(20万円交付)

- ・フラム・カルナリ川研究隊(10万円交付)…辞退

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援(30件)

カ) 日本山岳文化学会の茨城大会の後援

3. 安全登山の啓発事業

ア) 中高年安全登山指導者講習会(国立登山研修所共催)の実施

① 東部地区(東京・高尾山)9/11(金)~13(日)、参加者60名+講師スタッフ20名

② 西部地区(京都・京都北山周辺)11/28(土)~30(月)参加者62名+講師スタ

スタッフ 35 名

イ) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山県・国立登山研修所)平成27年9/11(金)～13(日)参加者46名

②東部地区 土合山の家 平成28年1/29(金)～31(日)一般参加者34名

ウ) 第54回全日本登山体育大会・宮城大会開催

10/9(金)～11(日)宮城県・栗駒山周辺 参加者208名+スタッフ80名

エ) 研修及び研究会

①遭難対策研修会兼委員総会 6/27(土)～28(日)関西大学高槻キャンパス

②遭対常任委員夏山研修会 4/18(土)～19(日)埼玉県・伊奈県民活動センター

③国際委員総会兼第34回海外遭難対策研究会

6/13(土)～14(日)国立オリンピック記念青少年センター 参加者42名

④海外登山懇談会

11/19(木)国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者54名

アメリカの探検クライマー、マイク・リベッキ氏のスライド&トークショー

⑤第54回海外登山技術研究会

2/13(土)～14(日)国立オリンピック記念総合センター 参加者延べ133名

オ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

カ) 平成27年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他)

7/2(木)東京・文部科学省講堂 参加者300名

キ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/HP掲載)

ク) UIAA 登山標準の調査

・UIAA 登山委員会の日本開催 4/10～11 関西大学高槻キャンパス

・UIAA 登山委員会に青山副委員長を派遣

11/12(木)～11/14(土) ロンドン、スペイン

ケ) 遭難事故の調査研究

・遭難事故に関する調査研究(委託事業)

・遭難事故の科学的分析

・技術用具の研究(ロープ結束強度検証) 9/26(土)～27(日)

コ) 遭難事故科学的研究支援

・IMSAR 研究助成支援(継続)

サ) 位置探知機「ヒトココ」のレンタル・サービス

シ) 消防庁の「救助技術高度化検討会」への協力

ス) 内閣府の「噴火時等避難計画手引き作成委員会」への協力

4. 登山指導者育成事業

ア) 指導員研修会

①指導常任委員研修会

- ・ 8/22 (土) ~23 (日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者 7 名
- ・ 2/10 (水) ~11 (木) 土合山の家 参加者 10 名

②登攀技術研修会 (A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

11/21 (土) ~22(日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者 25 名

③氷雪技術研修会 (A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

4/25 (土) ~26 (日) 富士山 参加者 35 名

2/20 (土) ~21 (日) 大山 参加者 27 名

④指導委員研修・委員総会

6/13 (土) ~ 14 (日) 東京海員会館 参加者 61 名

⑤安全登山実践講座・基礎編の開催 (東京都山岳連盟、山梨県山岳連盟)

⑥指導常任委員会 毎月第 1 月曜日

イ) 指導員養成講習会

公認山岳スポーツ指導者の養成

① 級指導員・主任検定員養成講習会の実施

- ・ 中央開催 : 7/10 (金) ~12 (日) 東京・昭島
- ・ 各岳連 (協会) 会長に委嘱し年間実施

ウ) 国立登山研修所研修会の後援 (通年)

5. 登山者教育事業

ア) 研修会

① 指導・遭対委合同研修会 6/20 (土) ~21 (日) 参加者 19 名 熱海

② 夏山登山リーダー制度検討開始

UIAA トレーニングスタンダードの考えを取り入れるなど、指導者(インストラクター)養成以外にも登山を広く普及させるレベルの制度を検討する。

6. 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

①第 10 回山岳スキー競技日本選手権大会

4/5 (土) ~6(日)、長野県・栂池高原、参加選手 63 名

②全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会

5/16(土)~17(日)、鳥取県倉吉市、参加選手 194 名

③第 29 回リード・ジャパンカップ (和歌山国体リハーサル大会)

6/6 (土) ~7 (日) 和歌山県みなべ町 参加選手 140 名

④第 18 回 JOC ジュニアオリンピックカップ

- 8/14(金)～16(日) 富山県南砺市桜が池 cc 参加選手 214 名
- ⑤全国ルートセッター研修会
8/17(月)～19(木) 富山県南砺市桜が池 cc 参加者 12 名
※受講希望者多数につき、12月の全国高等学校選抜クライミング選手権大会時に
第2回研修会を開催
12/25(月)～27(水) 埼玉県加須市 参加 6 名
- ⑥第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会開催準備(「青少年育成事業の
項参照)
- ⑦第11回ボルダリング・ジャパンカップ
1/30(土)～31(日) 埼玉県加須市・加須市民体育館 参加者 149 名
- ⑧日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会(マムート・カップ)
3/26(土)～27(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館 参加者 246 名
- ⑨競技部ブロック研修会の開催準備 11月～3月 全国9ブロック
東北(11/28～29)、四国(12/5～6)、北信越(12/12～13)、中国(12/12～1
3) 関東(1/23～24)、近畿(2/13～14)、東海(2/27～28) 北海道(3/6)、
九州(3/5～6)、和歌山特別研修(5/24)、東京特別研修(2/26～27)
- ⑩全日本パラクライミング選手権大会
1/10(日) 明治大学和泉キャンパス総合体育館 参加者 16 名
- ⑪審判・セッター会議(2/20)
- ⑫IFSCクライミングワールドカップ加須大会2016の開催準備
平成28年4/23(土)～24(日) 埼玉県加須市・加須市民体育館
- イ) 国体山岳競技の主管
- ① 4/18(土)～19(日) 第70回和歌山国体第1回基準会議、和歌山県みなべ町
 - ② 6/5(金)～6(土) 第70回和歌山国体第2回基準会議、和歌山県みなべ町
 - ③ 9/6(日) 組合せ抽選会 岸記念体育会館
 - ④ 第70回和歌山国体山岳競技開催 10/3(土)～5(月) 和歌山県みなべ町
 - ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
 - ⑥ 第70回和歌山国体以降の開催県への指導
 - ⑦ 三重国体正規視察 11月19日(木) 三重県菰野町
- ウ) 競技運営
- ①競技委員総会の開催(4/6(日)、岸記念体育会館)
 - ②国体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣

7. 競技力向上事業

ア) 日本代表選手選考・派遣

- ①代表(S. A. B)の選考

イ) 代表選手の派遣

①世界ユース選手権大会

8/26 (水) ~9/7 (月) イタリア・アルコ 小日向監督他 36 名
ボルダリング：金 1 (緒方良行)、銀 2、 リード：銅 2 のメダル獲得

②IFSC クライミングWC2015 (リード、ボルダリング)

- ・3月~11月 世界各地
- ・ボルダリングでは終了、野口啓代選手が女子ランキング 1 位で 2 連覇達成。野中生萌選手が 3 位となった。

③S 代表 (安間佐千、野口啓代、小林由佳) 及び A、B 代表の派遣

④アジア選手権 11/20-22 リード、スピード、ボルダー

リード男子 1 位 是永敬一郎 2 位 中野稔
リード女子 2 位 小林由佳 3 位 太田理娒
ボルダリング男子 1 位 堀創 2 位 渡部桂太 3 位 杉本怜
ボルダリング女子 1 位 野中生萌 2 位 野口啓代

⑤アジアユース選手権 12/3-6 リード、スピード、ボルダー

4 カテゴリー 3 種目 男女 金 銀 銅 各 36 個のメダルの内
金メダル 14 個 銀メダル 8 個 銅メダル 6 個 計 28 個のメダルを獲得
※IFSC 国別ランキング 2015 では、日本は 3 位となり表彰された。

ウ) ユース強化合宿の派遣

1/4 (月) ~12 (火) イタリア・トリノ 小日向徹団長ら 24 名

エ) ユース選手・指導者講習会の開催

オ) トップ・クライマーの体力測定 (JISS に委託) の結果を分析して競技力向上を図る。

カ) 競技者育成プログラムの作成とそれに係る事業の検討

キ) オリンピック・プロジェクト・チーム

- ・2020 東京五輪組織委員会よりスポーツクライミングが追加種目として推薦される。
- ・2020 オリンピック特別対策強化プランを JOC へ提出した。

8. 国際交流事業

ア) 開催

①UIAA 登山委員会の日本開催 (「安全登山の啓発事業」のク) を参照)

イ) 国際交流

①訪日する外国登山代表団との交流

- ・サミナ・メベイグ (パキスタン女性で世界 7 大陸最高峰登頂者) 歓迎レセプション。(10 月 2 日、駐日パキスタン大使館)

②マイク・リベッキ講演 (安全登山の啓発事業 (エ) 参照)

③パキスタン・ナショナル・デー・レセプション (3/22、ホテルニューオータニ)

ウ) 派遣

①キルギス山岳会のレーニン峰登山への派遣

7/17~8/8、大場智之、川原庸照

②UIAA International Youth Expedition(イラン山岳・スポーツクライミング連盟 (IRI M) 主管)のダマヴァンド登山への派遣

7/21~31 鈴木将太

③BMC Summer International Climber Meet 2016 への派遣公募

大部良輔に決定

④日中韓登山技術交流研修会

27年度は韓国が幹事国であったが、中国が不参加のため、取り止めとなった。

9. 医・科学支援事業

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援 (受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席)

イ) UIAA MedCom

①UIAA MedCom Meeting への出席

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

①国際認定山岳医研修会

②日本登山医学会認定山岳医研修会

③NPO 富士山測候所を活用する会

④JSMM 登山者検診ネットワーク

⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究

②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

③競技力向上事業に係る調査研究 (「競技力向上事業」を参照)

10. アンチ・ドーピング

ア) アンチ・ドーピング思想の普及・啓発・教育など

①ドーピング検査実施 (JADA に委託)

全日本ユース選手権ボルダリング競技会 (5/17)

第29回リード・ジャパンカップ (6/7)

第11回ボルダリング・ジャパンカップ (1/31)

日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会(3/27)

②TUE (治療目的使用に関わる除外措置) 申請の支援

- ② ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援
- ③ 国体監督会議や競技部ブロック別研修会での啓発・教育の推進 3ブロックで開催
関東（1/24）、近畿（2/14）、東海（2/28）

11. 山岳環境保全事業

ア) 研修及び研究会

- ① 自然保護委員総会の開催（9/12～13、国立磐梯青少年交流の家）参加者 110名
- ② 常任委員研修会
6/13（土）～14（日） 長野・戸隠
- ③ 第4回関東地区自然保護交流会
10/31（土）～11/1（日） 茨城県日立市 参加者 52名
- ④ 自然保護指導員研修会
11/7（土） 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者 70名

イ) 自然保護の啓発

- ① 自然保護指導員制度の推進
 - ・ 指導員の手引きと PR カードの発行
 - ・ ニュース・レター（季刊）の発行
- ② 全国環境月間（6月）の実施
- ③ 環境庁・自然公園指導員制度への協力
 - ・ 自然公園指導員の推薦
 - ・ 自然公園ふれあい全国大会
- ④ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
 - ・ 山岳環境保護団体連絡会への参加
 - ・ 山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
 - ・ 各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑤ 日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

12. その他支援事業

- ア) ネパール大地震救援募金活動、当協会も含めた山岳6団体と共同で行った。
募金期間（5/1～3/31）、総額 27,942,390円（JMA205件、6,368,826円）

13. 共益事業

（1）広報等

- ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第553号（4月号）～第564号（3月号）
 - ・ 553号（4月号）より16頁、全頁カラー、表紙変更
- イ) HPの更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

ウ) デジタル情報チームの設置

- ・HPリニューアルの検討

エ) スポーツライミングの五輪競技種目候補及び和歌山国体概況に関する記者発表

岸記念体育会館 8/24(月)、9/16(水)、9/28(月)、1/26(火)

(2) 会議等

ア) 総会 27年5/31(日)(岸記念体育会館)

イ) 理事会 第1回 27年5/16(土)(岸記念体育会館)

第2回 27年5/31(日)(総会終了後)

第3回 27年11/8(日)

第4回 28年3/6(日)

ウ) 全国参与会 27年10/9(金) 宮城県(第54回全日大会開催時)

エ) 顧問・参与会 28年1/16(土) 東京アルカディア市ヶ谷(新春懇談会開催時)

オ) 常務理事会 定例会毎月第2木曜日開催(原則) 年12回開催

毎月常務理事会の前に三役会議を開催

カ) 連絡部会(常務理事・委員長会議) 6、9、10、1、3月第2木曜日(原則)

キ) 役員研修会 8/29(土)～30(日) 東京海員会館、理事・監事27名参加

ク) 山岳4団体懇談会 7/23(木)(日本勤労者山岳連盟が幹事団体)

ケ) 全国「山の日」協議会の推進

- ・通常総会 5/22(金)

- ・臨時総会 11/20(金)

- ・運営委員会 4/22、5/22、6/17、8/3、10/2、11/20、1/8、3/1

- ・「山の日」制定記念祭 in 大分・くじゅう

8/11(火) 大分県・九重町長者原

- ・JMA全国9ブロックで「山の日」祝日化プレ・イベントを開催

コ) 国際会議

① 国際山岳連盟(UIAA)総会 10/20(火)～23(金) 韓国 神崎顧問、八木原会長、小野寺事務局長を派遣

② アジア山岳連盟(UAAA)理事会 6/9(火)～6/12(金) キルギス(神崎顧問、小野寺事務局長を派遣)

アジア山岳連盟(UAAA)総会(10/24(土)～25(日) 韓国 神崎顧問、国澤顧問、八木原会長、小野寺事務局長を派遣

サ) 2016年新春懇談会(1/16(土)アルカディア市ヶ谷 参加者150名)

(3) 総務等

ア) 平成27年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成発行

イ) 議事録の整備

ウ) 山岳共済会のPR(Webサイト広告、まいたび広告、登山月報広告、他)

エ) 会長諮問委員会 11/26、12/14、1/15、2/24、3/30 の5回開催

(4) 財政等

ア) 財源の確保

イ) 外部資金の導入 (グローバル・パートナー・プログラム 1 社、代表ユニフォーム協賛 2 社獲得、競技会協賛等)

ウ) 常務理事会において毎月の収支決算の報告

エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理

オ) 山岳共済会 (事務センター) の運営管理・共済会会計

カ) 会計監査 4/23 (木) ~24 (金)、中間監査 11/4 (水)

キ) 寄付者に対して、団体として確定申告時に税額控除に関わる証明が出来る、「税額控除制度」があるが、その団体資格を日山協が取得できるように内閣府に対して申請、11月20日に証明書交付があった。この日より5年間有効となる。

以上